

令和2年度 学校評価 自己評価① 職員用 集計

1 教育課程・学習指導

<教科等の学習指導>

内容	A	B	C	D
① 授業において主体的・対話的で深い学びにつながるアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業実践が行えたか。	4	5	5	0
課題点	・生徒が主体的、対話的、能動的に深い学びができていないと言われたら、まだ少し足りないところがあるのではないかと思う。			
改善策	・コロナで対話的な授業を行うのが難しかった。 ・実習内容を、主体的、対話的、能動的なことができるような工夫が必要かと思われる。 ・対話的な授業の工夫を行う。			
解決策	・令和3年度学習指導要領実施に向け、単元計画を作成。その中にアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を計画的に実施する。			
② 授業において教科横断的な視点から単元計画を行い指導と評価の一体化を図り、生徒の能動的な関わりを促進することができたか。	0	6	8	0
課題点	・教科横断的な視点を持って授業を行う。			
改善策	・単元計画の把握。関係がある部分を明確にしておく。			
解決策	・教科内の工夫、教科間の工夫、総合的な学習の時間、特別活動(キャリア教育)美術館との連携学習を意図的に計画し実践する。			
③ 生徒理解に基づき、学習意欲を高めるとともに、学習規律を徹底し、自ら学ぶ力を養うことができたか。	3	10	1	0
課題点	・自閉的傾向のある生徒の協働的な学べへのさらなる促進 ・意欲的に取り組めない生徒がいる ・個々の能力に合わせた指導の充実			
改善策	・ペアワークやグループワークをより多くとりいれる ・進路指導とも絡めて指導していく。 ・計画的な発問の工夫			
解決策				
④ 授業のユニバーサルデザイン化を図り、課題学習や補充的な学習、発展的な学習を計画的に行い、個に応じた指導を充実させることができたか。	5	8	1	0
課題点	教職員全体で統一できていないことがある。			
改善策	教職員全体で指導のユニバーサルデザイン化を徹底すること			
解決策				
⑤ 家庭学習の定着を図り一人ひとりの能力を伸ばすことができたか。	1	9	4	0
課題点	支援をしても学年担当から本人、保護者に伝わっていないことがあり残念だった。			
改善策	支援をしていないわけではないので、きちんと伝達してほしい。保護者に。			
解決策	・タブレットの活用を定着させる			

<評価>

内容	A	B	C	D
① 単元や題材など内容のまとまりを見通しながら評価の場面を工夫し、学習の課程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図ることができたか。	3	10	1	0
課題点				
改善策				
解決策	・令和3年度単元計画を作成し、評価の内容や場面を生徒・保護者に明らかにし、指導と評価の一体化を図り学習意欲を高める			
② 生徒の学習活動としての相互評価や自己評価なども工夫し、生徒の学習意欲の向上を図ることができたか。	1	9	4	0
課題点	・観点をバランスよく評価していくこと。 ・作品の相互評価が不十分な点があると思う。			
改善策	・少なくなりがちな「話す・聞く」に力を入れていく。 ・作品の評価をグループで行い作品の良い点、改善点等、他の人の評価をもとに深い学びになる。			
解決策	・令和3年度単元計画を作成し自己評価、相互評価の場面を設定し意欲の向上を図る			
③ 指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等多面的・多角的な評価を行うことができたか。	3	6	5	0
課題点	・緘黙の生徒がおり、話し合い活動にむらがある。 ・話し合い活動に課題がある。 ・生徒の知的特性により、グループでの話し合い活動が十分にとれなかった。 ・レポート提出の回数が少ない ・コロナで話し合い活動を行うのが難しかった。			
改善策	・発表の方法を工夫。個別対応しすぎも不公平感を生んでいると思う。 ・グループ活動の中で順序だてて話し合いを進められるような声掛けや状況設定などの適切な支援をしていく。 ・多くする ・記入用紙やボードなどを使用し、話し合い活動を工夫する。			
解決策	・方法や内容の工夫、タブレットの活用、共有を通して能力を高めていく			

<道徳>

	内容	A	B	C	D
①	道徳教育推進教師を中心に校内推進体制を整えられたか。	1	4	7	2
課題点	青山アカデミーに出す「withコロナ」の授業について、具体的な要項やフォーマットが出ず、取り組む内容や進め方などがわかりに 校内で統一がとれていない。学年ごとの分断ではなく3年間を通じても計画が見えない。 アカデミーの授業など提案が早く出されると良かった。				
改善策	お忙しいと思いますが、要項・フォーマットなど早めにお示しください。 道徳担当からの説明の機会、研修が必要。 全学年でワークシートの統一（振り返りの部分等）ができると良い。				
解決策	・全学年で共通した取り組みを提案していく。（評価、ワークシート等の形式をそろえていく）				
②	自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習に取り組むことができたか。	3	10	1	0
課題点	教科書以外の資料を計画にうまく落とし込んでいくこと。				
改善策	適当なものがないときは自作する。				
解決策	・学年会で授業前に内容や中心発問について話し合う機会を持つ				
③	「考え議論する道徳」の実践を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て道徳性を養 わせることができたか。	1	8	5	0
課題点	有意義な議論とするために、どのような発問をしていけばよいか。（中心発問） 道徳の授業では生徒にとってより現実的で生活的な題材を選択したため、考え議論する道徳にまでは至らなかった。 中心発問の設定 グループで話し合いをすることができない環境（コロナ禍）なので、議論して色々な考えを知ることがあまりできない。				
改善策	生徒の知的発達への考え、より生活に即した題材を選び、自分で考えられような教材や支援を通して、自己で考え、表現し、相手の意見を聞く姿勢を身につけさせる。 計画的に設定する 少し相談する機会をつくる。				
解決策	・各学年の重点項目を確認する。自分の学年の授業については、基本自分が授業しないときは見学し、お互いに声をかけ合っ て多学年の授業も参観する。				

<特別活動>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等で育まれた資質・能力を実践的な集団活動を通して、総合的で汎用的な力に変え、実生活で活用できるようにすることができたか。	1	13	0	0
課題点					
改善策					
解決策					
②	学校行事において、集団生活の意義を理解させ、集団の一員としての連帯感を高めるとともに、節度ある行動がとれる生徒を育成することができたか。	1	8	5	0
課題点	リーダー育成。 コロナの影響で行事などが減ることでこれまでに体験させてあげられていたものに代わる行事を十分に提供してあげられなかった。 行事ができていない 生徒が主体的に活動できる場が少ない。 コロナで中止になる行事が多かった。				
改善策	リーダーとはどのような存在か。求めるリーダー像の明確化。どのように育てるか。 日々の学活や総合や休み時間を使って、生活に即して集団で活動し、より良い集団を作っていけるような教材や支援方法を精選して取り入れていく。 行事ができるようになるまでよい 少ない行事の中で生徒の主体性を育てる指導に留意する。 少ない行事でも、また日々の活動の中でも、集団の一員であるという意識がもてるよう話をしていく。				
解決策	今年度は、コロナ禍で行事がなくなったこともあり、集団意識やリーダー育成が難しかったが、行事だけでなく、普段の生活から集団としての役割やリーダーに責任をもたせる場面を教員が意識して、促していく。例えば、生徒会活動で各委員会でできることを考えたり、クラス内の生活班で班長を中心にそれぞれの役割を全うさせたり等。				
③	学級活動、生徒会活動、学校行事等を通じ生徒が自主的に活動する機会や体験活動を充実させ、自主性や自発性の発達を促すこと	2	10	2	0
課題点	行事が少なかったが、班活動では生徒も工夫していた。 発表する力の育成。				
改善策	今回を機会に、行事の簡素化、時期を見直すきっかけになった。 国語科の授業でも育成していく。				
解決策	②の解決策と同様				

<総合的な学習の時間>

	内容	A	B	C	D
①	多様な学習形態を取り入れ、教科横断的な視点から各教科等で身に付けた知識や技能を相互に活用し、身近な課題や興味・関心に基づき課題研究により、自己を見つめ、自己の生き方に活かす態度を養うことができたか。	1	10	3	0
課題点	時間が足りない。 教科横断的な視点と現代の諸課題に目を向けるまでは出来ているが、授業で校内全体で実践していくことはまだこれから充実していく必要がある。				
改善策	時間の確保 単元配列を確認し、今後学校全体で取り組んでいく。				
解決策	・全体計画等を再提案します。				
②	地域の人材ICT機器を活用しながら、物を大切にすることを育て、環境保全に取り組み、環境教育の充実を図ることができたか。	1	8	5	0

課題点	地域との交流がなかった。 全教員がICT機器を使用できるようにする。PowerPointや印刷についての指導。(発表準備などができるように) 地域との関わりをもたせることができなかった。				
改善策	社会の状況が変化するまでICTでつなぐなどの対応が必要。 現在の状況で地域との関わりを体験させることは困難なので、総合的な学習の時間を活用して、これまでよりも視野を広げて地域社会に目を向けられるような適切な教材を精選して授業に取り入れていく。				
解決策	・地域との関わりは今後の新型コロナの感染状況によります。 ・ICT機器の操作等は必須。 ・「総合の時間」に地域についての調べ学習等を検討します。				
③	地域清掃やボランティア活動など体験活動を通して、社会貢献する態度を育成することができたか。	2	8	3	1
課題点	集団に貢献するという意識が今一つ希薄な生徒が多い。 コロナ禍の中でボランティア活動することは難しい。				
改善策	良いリーダーを育て、模範とさせる。 コロナが収束して落ち着いてから活動する。				
解決策	・新型コロナの感染状況によります。				

<オリンピック・パラリンピック学習>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等でオリンピック・パラリンピックに関わる学習を行い、オリンピック・パラリンピックの精神や心のバリアフリー、ボランティア・マインドの育成を図るなど、障がい者理解や多様性を尊重する態度を育成することができたか。	0	9	4	1
課題点	オリパラに関する学習の機会を昨年度よりも多く与えることができなかった。 少々オリンピックムードではなくなっていること。 オリパラ講演会が明日ありますが、考える機会が少ない。 コロナでオリンピックが延期となった。行事も今後行うため、来年度のオリンピックに向けて取り組んでいく必要がある。				
改善策	近日に行われるオリパラの行事を契機として、これまで触れることのできなかったオリパラ学習に親しませる。 オリンピックがあるかどうか不明な点もあるが、準備の中で学んでいくことが大切であることを認識させる。 障害者理解などの講演を増やす。 来年度に向け意識して実践していく。				
解決策	来年度オリンピックを実施するかも影響あるかと思うが年間指導計画をもとに指導を実践していく。				
②	英語科国際の授業や修学旅行・移動教室などの事前学習を通して、我が国の伝統と文化を理解するとともに、諸外国の文化と伝統に正しい知識をもち、それらを尊重する態度を育成し豊かな国際感覚を育成することができたか。	0	7	6	1
課題点	国際交流まで手が回らなかった。				
改善策	今後国際交流に関われるような機会があれば社会科英語科と連動して企画する。				
解決策	年間指導計画をもとに教科を横断的に実施していく。教科の連動も視野に入れ考えていく。				

<特別支援教育>

	内容	A	B	C	D
①	特別支援学級と通常の学級との交流、東京都立青山特別支援学校との連携・交流を実施することにより、豊かに関わり合い、助け合い、学び合う生徒を育てることができたか。	3	10	1	0
課題点	いろいろな人と共生して生きることを学べると思う。 交流事業ができにくかった。				
改善策	以前より、支援を要する生徒に寛容に生徒同士がなったと思う。 実際の交流ができなくても、道徳の授業等で取り上げていく。				
解決策	青山特別支援学校からも、今後も交流を続けていきたいという前向きなご意見をいただいています。来年度も可能な限り交流を続けていく方向で調整をしていきます。				
②	特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育委員会を定期開催し、巡回指導教員、特別支援専門委員、スクールカウンセラー、学習支援員、介助員と学年等との連携を密にし、個々の能力や特性を伸ばすことができるよう特別支援教育の充実を図ることができたか。	2	11	1	0
課題点	少しずつ、特別支援への理解が広がり、様々な取り組みが行われていると思います。 しかし、巡回指導教員、学習支援員・SC・介助員などと、なかなか連携がとれていないことが課題だと思います。(時間の問題も大きいと思われます。)				
改善策	巡回指導員の方からの文章による報告のみにとどまっている。それを受けて、今後の具体的な指導方法など、長期的な視点で考えていくこと。 特別支援を要する生徒への対応策などを全体に周知できていないこと。 特別支援教育委員会が昨年よりも充実した。多くのスタッフが有機的に連携しあって支援できた。 カウンセラー、支援員等の人員が少ない。 個別指導計画の共有、特別支援委員会での確認、連携をとれる体制づくり...など できるだけ、日々の生徒の様子や、「この方法の支援が上手くいった」「この言い方だと話を聞いてくれた」など情報交換することが大事だと思います。お互いに時間が無い中ではありますが...				
解決策	職員会議がとれないときが多いので、運営でできたことを学年会で伝え、実践していく。 カウンセラー、支援員等の人員を増やす。 ・教育相談、特別支援委員会の内容を学年会等で共有し、共通理解・共通実践を行う				

<言語能力の育成>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等で話し合い活動や議論する活動を取り入れ、学年の発達段階に応じた言語活動の充実を図るとともにプログラミング的思考力の向上を図ることができたか。	1	7	5	0
課題点	プログラミング教育を実施することができなかった。 話し合い活動はコロナ禍なのであまりしない環境である。 コロナで話し合いや発表の活動の充実を図ることが難しかった。				
改善策	特別支援学級でも実施できるようなプログラミングの教材や指導法を研究し、取り入れていく。 アクリル板など対策する。 直接会話ではない活動を充実させる。				
解決策	・話し合い、発表等の機会を工夫し(タブレットの活用)すべての授業で実践する				
②	自分の考えを人に伝えることができるように発表の機会を多く設け、言語能力を育成することができたか	3	7	3	0
課題点	例えば挨拶など、大きい声だが、何を言っているのかわからないような挨拶をする生徒がいる。				
改善策	日本語を大事にするように指導していく。				
解決策	・単元計画に位置付け計画的に指導し、教科横断的な視点で育成を図る。				
③	毎朝10分間の朝読書を含む読書活動の推進を図り、本を読む習慣を身に付けさせるとともに読書の楽しさを味わわせることができたか。	4	9	0	0
課題点					
改善策					
解決策	・図書館を利用する生徒を増やすための取り組みの充実、各授業での取り組みや委員会活動の活性化				
④	読書への関心・意欲を高めるため学校司書と連携し、生徒の発達段階や興味・関心に合わせた本の紹介、貸出を行うことができたか。	5	5	3	0
課題点	図書室の利用が少ない。				
改善策	お昼休みも図書室で学習できる生徒が増えるとよい。				
解決策	・図書委員会活動の活性化、生徒朝礼や昼の放送の活用等				

<情報活用能力>

	内容	A	B	C	D
①	タブレット端末等を用いて得た情報を取捨選択し、自分のものとして生かしたり、得た情報を加工したりして他者に向けて発信するなど、情報モラルについても理解し、情報活用能力を育てることができたか	1	4	7	1
課題点	タブレットの導入が遅い。 生徒のタブレット活用が遅れていること。 情報モラルについて理解する機会を設けることができたが、それを実生活の中で活かせるほどまでには至っていない。 危機についてくわしくない。 教員のタブレットがない。				
改善策	仕方ない。 タブレット等を活用するにあたり、様々な課題があるが、まずは活用してみる。各教科でどんな活用方法があるか、考えて実践していく。 実生活で情報リテラシーの知識を般化させられるような実践的な教材を精選して取り入れていく。 勉強していく。 教員のタブレット配付を早くする。				
解決策	・タブレットが導入されすべての教科・領域での活用、情報の共有、研修。校内研究との連携で指導能力の向上を図る				